

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3071300432
法人名	社会福祉法人 愛光園
事業所名	愛光園グループホーム
訪問調査日	平成 20年 11月 19日
評価確定日	平成 20年 12月 18日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3071300432
法人名	社会福祉法人 愛光園
事業所名	愛光園グループホーム
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野1401の2 (電 話) 0736-23-3830

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成20年 11月 19日	評価確定日	平成20年 12月 18日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人	

(2)建物概要

建物構造	耐火構造造り 4階建ての 4階部分
------	----------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,600 円		その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		780円		

(4)利用者の概要(平成20年10月20日)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 77 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	上田神経科クリニック、上田内科、かつらぎ町歯科医師会
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホーム愛光園に隣接する建物の4階にあるグループホームである。ホームの周囲には田畑が広がり、南には高野の山々がそびえ、四季の移ろいを感じられる。ホーム内は廊下も広く、各居室にはトイレがあり部屋の広さもゆったりとしている。各居室と廊下の間に一畳ほどの区切られた空間があり、椅子が置かれ入居者の落ち着き場所となっている。職員は明るく、入居者が自由にゆったり、ありのままの暮らしができるように入居者のケアを行っている。前回の評価後、理念の見直しや外出をできるだけ徒歩で行うことなど積極的に改善がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回、期待したい項目としてあげられていた理念の見直しについては、その後ホーム独自の分かりやすい理念が作られた。入居者の情報の把握には「センター方式」使用の取り組みもなされつつある。町の担当者との関わりについてはまだ十分とは言えない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価には管理者と全職員が関わっている。全ての項目を全員が行うのではなく、全職員でそれぞれの項目を分担しそれを管理者がまとめている。ケアに関する項目には全職員が関わっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、地域内にある同一法人の「愛光園第2グループホーム」と合同で開催されており、開催頻度は6ヶ月に一度である。議題は催し物などホームからの報告事項が多く、地域との交流やサービスの向上につなげる取り組みはまだ十分できていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 季刊の便りを発行してホームでの様子を伝え、訪問時に意見を聞くようにしているが家族の声はあまり聞かれない。家族から出された意見はミーティングで話し合い運営に活かしている。「家族会」は数年前に開催したが現在は行われていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎月1回開催される地域交流会に参加し、地域のお年寄りとの交流を持つよう努力している。外出もできるだけ徒歩で行い、地域住民と言葉を交わす機会が持てるよう配慮している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価のあと、ホーム独自の理念を作り上げているが、地域密着型サービスの柱である「地域で暮らし続ける」、「地域との支え合い」は理念に盛り込まれていない。	○	管理者も職員も、入居者が地域と交流をもつことの意義をよく理解し、実践もできているので、更なる意識付けのために、具体的な地域密着の理念を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念はリビングの見やすい位置に大きく掲げられており、職員も意識している。管理者は全職員に、地域との交流やその人らしく暮らすことの大切さを、月に2回のミーティングをはじめ、機会ある毎に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの住民会館で月に1回開催される地域交流会に入居者と職員が交代で参加し、地域の方に顔を覚えてもらう機会を作っている。地域交流会では作品の展示を始め、看護師や理学療法士によるリハビリや体操などが行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は自己評価や外部評価の意義を理解している。自己評価は全職員が関わり、担当を決めて行っている。外部評価を活かし、理念の修正や、徒歩での外出の機会を増やすなど積極的に改善を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町役場の職員や民生委員、家族や法人の代表、管理者が運営推進会議のメンバーで6ヶ月に1回程度開催され、内容は行事の案内や報告が主である。会議の開催で町役場へのボランティア募集のポスターの掲示、認知症の啓発等の成果が得られた。	○	運営推進会議を取り組みに生かしていくためには2ヶ月に一度行うことが望ましい。地域交流の議題やメンバーからの意見収集など、積極的な活用が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の職員とは意見交換をしているが、頻度は少なくサービスの向上に繋がるまでには至っていない。	○	町の職員と会う機会を多く持ち連携を深めることが望ましい。具体的な例としては、町民を対象とした「認知症サポーター養成講座」の開催などであり、企画提案し協働することによる関係づくりの構築に期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に一度、ホームの便りを発行している。入居者の健康状態や金銭管理の状況は便りを送る際に一緒に報告している。新入職員は写真を載せて知らせている。入居者の状態が変わった時には、電話や訪問時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム1階のエレベーターの前に意見箱を置いている。家族の訪問時には、積極的に意見を聞くようにしているが、ホームを訪れる家族が少ない。家族会も数年前に実施したが、現在は行われていない。	○	訪問する家族が少ないことが、ホームの課題であるが、年に数回でも催し物の際には入居者と家族が共に過ごす時間が持てるように工夫するとともに「家族会」を再開し、家族からの声が集まりやすくなることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員に継続して勤務して欲しいと考えており、悩みを聞くなど、最小限の離職になるよう努力している。職員も離職後ホームを訪れたり、年賀状を送るなど入居者のダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員が研修を希望した際にはできるだけ参加できるようにしているが、法人の規定により、グループホームだけの研修は勤務として認められていない。研修の希望について、管理者と職員の意思の疎通が不十分な面がみられる。	○	管理者と職員とで十分な話し合いを行い、研修が自由に受けられる体制づくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は高野山の南山苑ととの交換研修により、意見箱の設置や職員紹介の案内などのアイデアを吸収し、運営に活かしている。今後は職員にも参加してもらいたいと考えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一法人の特別養護老人ホームで短期入所を利用しながら、グループホームを見学し、慣れてから利用になる入居者が多い。1回の見学での入居者は、不穏になりやすいのでその人のペースを守り、生活リズムを崩さないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農業をしていた入居者からは野菜の栽培方法について教えてもらうことが多い。裁縫の得意な人には、衣類の修繕をしてもらい、料理上手の人は職員はお手本にしている。調理や後片づけは職員と入居者が連携して行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	服装や食事など些細なことでも入居者の意向を汲み取る努力がなされている。連絡帳や気づきノートを作成し、管理者も職員も情報を共有している。気付かない職員には気付くような声かけがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のケアは職員全員が関わるが、入居者毎に担当する職員がおり、意見やアイデアを出し合う。計画の作成には本人や家族から意見を聞き行っている。「センター方式」も少しずつ取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは概ね3ヶ月毎に行っている。今後は、人間の生活機能と障害の分類法「ICF」の考え方を取り入れ、全てのプランを見直す予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診は家族に依頼するが、やむを得ない場合はホームで対応している。本人の希望により同一法人のデイサービスに職員と入居者が参加することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は原則として法人の医療機関になっているが、他科など本人が希望すれば他の医療機関も受診することができる。医療機関とは24時間連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、「看取りに関する指針」について家族に説明・同意が行われている。医療処置が必要な場合など無理な場合もあるが、本人や家族と話し合い、本人が希望すればできるだけホームで生活できるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者も職員も入居者には敬意を払っており、丁寧な声かけをおこなっている。呼び名も原則は名字だが、本人が希望すれば一番気に入った呼称を使うこともある。個人の記録はパソコンで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事などホームの基本的な一日の流れはあるが、それにとらわれることなく入居者の希望を尊重している。起床時間も4時から6時とまちまちであるが、その人の生活リズムを大切に強制はしていない。昼食後も自由に過ごしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人のメニューに沿って材料を購入し入居者と職員が一緒に調理し皆が一緒に食べている。今年からトレイを無くしたところ最初は少し戸惑いがあったが現在は問題なく食事が出来ている。後片づけは役割が決まり、てきぱきと行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は通常は午後から実施しているが、本人が希望すれば朝からでも入浴できる。午後7時以降は職員が一人になるため実施は難しいが、今後は勤務時間の見直しも行い、できるだけ対応したいと考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	塗り絵・手芸・人形など個人の楽しみごとへの支援がなされている。調理や水やりは役割分担ができ、花作りや野菜の栽培を希望する入居者には栽培できる場所を提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望にできるだけ添えるよう個別に配慮している。外食は法人の許可が得られてなく現在は実施していないが毎日の食材の買い物は天候に関係なく近くのスーパーに歩いて出かける。墓参り等は家族と共にできるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	屋上以外は、鍵を掛けず自由に出入りができる。エレベーターにはボタンに鍵がかかるボックスを付けているが、普段は自由に押すことができるため、入居者が一人で外出することもでき、職員は常に見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回、法人全体で避難訓練を行っている。備蓄も少しであるが用意している。現在、夜間を想定した避難訓練はまだ行っていないので、今後は行いたいと考えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食後、記録している。水分摂取は脱水を起こしやすい入居者は不足しないように気を付けている。夜間飲物を希望する入居者には、夕方に急須やポットを用意し、自由に飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の制服の着用が家庭的な生活感をやや損ねているが、リビングの窓からは周囲の山々や田畑がよく見え季節の移り変わりが感じられ、随所に季節の花が生けられている。あちこちに椅子が置かれてあり、気に入った者と話をしたい時などに利用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットとベッドは備え付けられているが、家具は本人の希望する物を置いている。居室には本人が書いた塗り絵や人形、テレビ、冷蔵庫など思い思いの物が置かれている。布団を一人ひとり気に入ったものに換えたところ、部屋の雰囲気が変わり、入居者の表情も明るくなっている。		